

十勝千年の森

千年続くよう育てられた森

十勝千年の森では、ガーデンとは何か、ガーデンはどんなれるのか、を考えるため、自然主義的アプローチによるガーデニングを実証しています。また、より大がかりなガーデニングコミュニティの中で、自然を鎮圧し支配するのではなく自然を育てていくメソッドモデルを提供しています。この数々の賞を受賞したコンセプトは、千年続く調和した自然の森環境を作り出すことです。

世界で最も影響力のある庭園およびランドスケープデザイナーの 1 人であるダン・ピアソンは、20 年以上前に、日本で最も優れたランドスケープデザイナーの 1 人である高野文彰とともに、庭園の概念的枠組みを設計しました。彼らのコンセプトは、2012 年北海道ガーデンショーで初めて公開されました。

広さ

400 ヘクタールにも及ぶ十勝千年の森の敷地内には、花咲く庭、農園、草原、起伏ある丘、谷といったエリアに複数の異なる生態系が存在しています。ここにはアースガーデン、メドウガーデン、フォレストガーデン、ファームガーデン、HGS デザイナーズガーデンの 5 種類のガーデンが存在しています。広大な敷地、平らに広がるエントランスと草原の間の高低差、より高くなっている森林といった起伏ある地形により、異なる生態系をともなう環境が可能となりました。

この広大なガーデンを 1 日で歩くのは不可能です。来園者は、セグウェイや乗馬のガイド付きツアーで、徒歩だと幾日もかかるエリアを見て回ることができます。そういった意味では、十勝千年の森は冒険パークにも似ています。

自然のままに

十勝千年の森が実践する自然主義的ガーデニングスタイルは、野生的な環境を保ち、自然の地理を活かしたスペースを創りあげ、土着の植物相と動物相を育成し、生態系全体を育てることです。また、基礎となる食を供給し、虫、鳥、哺乳類、その他の動物を持続可能な方法で生育することです。

生育の大部分においては、植物相のライフサイクル全体の長さを考慮する必要があります。植物の多くは多年生であり、毎年植え直す必要はありません。これらの植物が育ち、年をとり、死んでいき、環境は土着植物と独特の気候や地理に適応できる植物を中心に循環します。こういった植物は、化学肥料、肥料、灌水といった直接の世話をほとんど必要としません。

ヤギとチーズ作り

ヤギもこの牧歌的な風景の一部です。ヤギたちはチーズを作るためのミルクを供給しています。このチーズは日本の賞を受賞しています。チーズ作りのワークショップでは、自分でチーズを作り、

食べることもできます。このカフェで出されるフルーツ、野菜、ハーブ、食べられる花の多くも、この農園で栽培されています。

いつ訪問するか

十勝千年の森は、4月下旬から10月中旬の毎日、日中の営業となっています。十勝千年の森で体験できる内容は、このリンク[\[体験内容ページへのリンク\]](#)から確認できます。